

登録コード	A3595489	開講年度	2026					
授業科目	専攻研究Ⅱ					担当教員	野村 亘	
英文授業名	Thesis ResearchⅡ							
単位数	5	講義期間	前期（随時）	曜日・時限	集中・不定期		対象学生	4年生
講義室				授業形態	演習	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー	非該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					⇔	【授業の達成目標】	
	2022Aカリ，2021Aカリ，2020Aカリ，2019Aカリ							
	【2022年度以前カリキュラム対象】専門的な知識や研究能力を修得している					⇔	主として酵母を用いた主体的な研究活動を通して、実験技能の修得と課題解決能力を涵養する。また、自身の研究テーマを推進する過程で研究活動と社会貢献との関連を理解できるようになる。研究活動の進捗を論理的に発表することができる。	
	【2022年度以前カリキュラム対象】地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って問題をとらえ解決する能力を修得している					⇔	主として酵母を用いた主体的な研究活動を通して、実験技能の修得と課題解決能力を涵養する。また、自身の研究テーマを推進する過程で研究活動と社会貢献との関連を理解できるようになる。研究活動の進捗を論理的に発表することができる。	
	2026A3編（24A），2025A3編（23A），2024Aカリ，2023Aカリ							
	【2024年度以前カリキュラム対象】専門的知識や研究能力を基礎としての確かな情報を収集・理解し、発信できる能力を修得している。					⇔	主として酵母を用いた主体的な研究活動を通して、実験技能の修得と課題解決能力を涵養する。また、自身の研究テーマを推進する過程で研究活動と社会貢献との関連を理解できるようになる。研究活動の進捗を論理的に発表することができる。	
	【2024年度以前カリキュラム対象】地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って様々な課題をとらえ、解決する能力を修得している。					⇔	主として酵母を用いた主体的な研究活動を通して、実験技能の修得と課題解決能力を涵養する。また、自身の研究テーマを推進する過程で研究活動と社会貢献との関連を理解できるようになる。研究活動の進捗を論理的に発表することができる。	
(2)授業で学べる「テーマ」	その他							
(3)全学横断特別教育プログラム								
(4)授業の概要	分子細胞生物学的な解析などを通して酵母の細胞機能について主体的に学ぶ。特に酵母の環境応答や代謝調節の理解に繋がる解析手法を修得するとともに、研究活動における論理的思考を養う。							
(5)授業計画	1. 自身の研究テーマと関連する実験手法の習得と実験条件等の構築 2. 研究テーマに関わる最新の文献情報の収集 3. 解析結果の客観的な評価と実験計画の作成 ＊最後に授業アンケートを実施する。							
(6)自主学習の指針	研究テーマに関わる最新の知見や情報を積極的かつ主体的に収集する習慣をつける。							
(7)成績評価の基準	授業の達成目標を許容水準で行うことができる力を備えていれば、合格レベル（可）とします。							
(8)事前事後学習の内容	授業の達成目標を達成できるように、事前準備等に取り組んでください。							
(9)テストやレポートの予定	なし							
(10)成績評価の方法	受講態度および授業計画に挙げた内容に対する取り組みの成果を総合的に判断して評価する。 評価基準[評語(点数)]：秀 (90-100)、優 (80-89)、良 (70-79)、可 (60-69)、不可 (59以下)							
(11)質問、相談への対応および連絡先	常時、受け付けます。							
(12)履修上の注意	主体的な取り組みを期待します。							
【教科書】	特に指定しない。							
【参考書】	特に指定しない。							